

- 浅草井楼櫓 -

歴史と賑わいが作り出す街浅草。浅草には特有の空気感がある。

〔浅草井楼(せいらう)櫓〕はその空気感を浅草六区へとつなぎ、空気感の輪を構築する核となる。

浅草の歴史と文化を継承するとともに、伝統や文化の井楼となり浅草の行く末を見つめるきっかけを作り出す。



昼間は開かれた低層部分が道と建築をつなぎ、広場を中心とした賑わいのなかで浅草に新しい活動の場を与えます。



夜は、提灯のように建築全体がやわらかな光を帯び、浅草六区と周辺のまちを光で包み込みます。やわらかな光はみちと街のにぎやかな空気感を演出していきます。



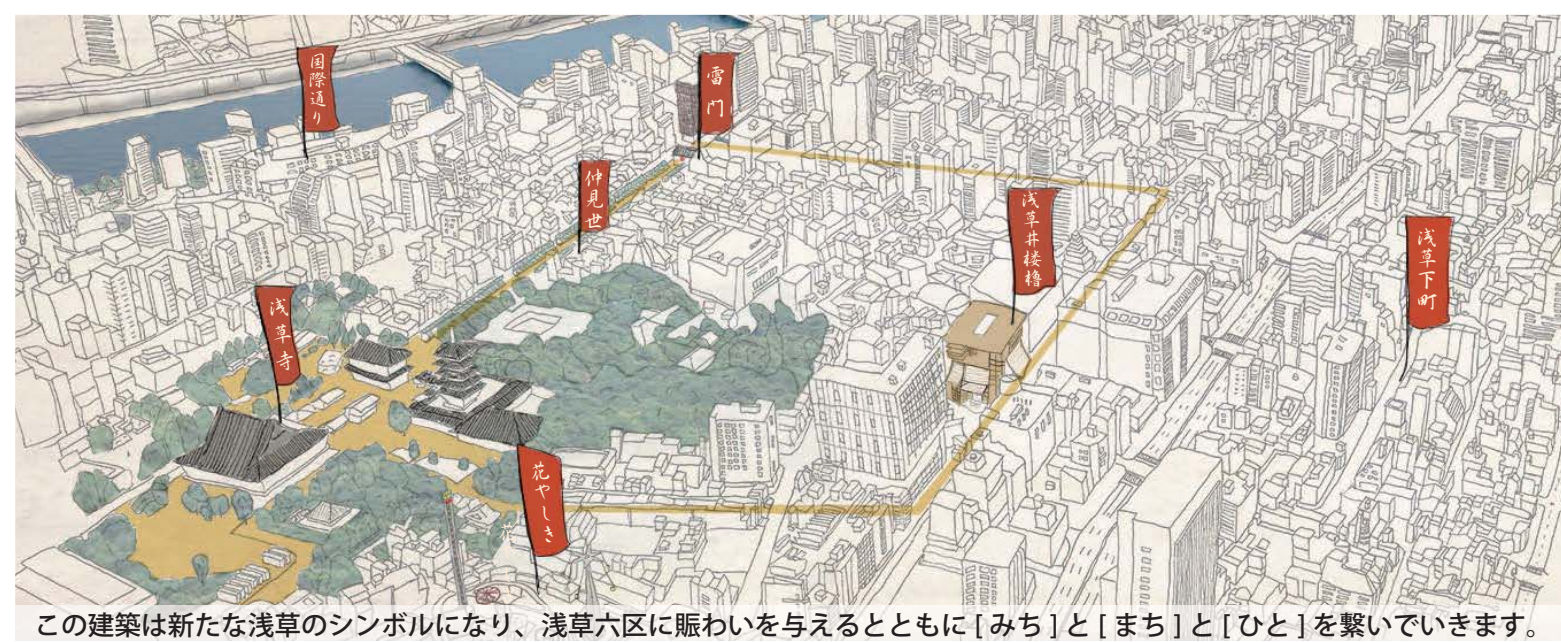
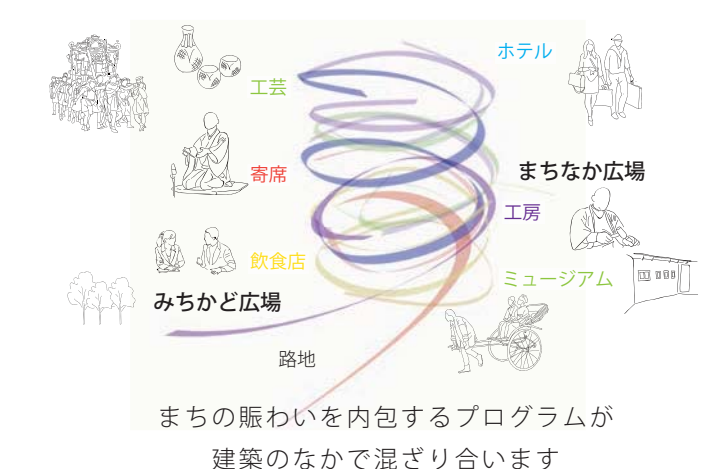
■01. 浅草-歴史と賑わいが作り出すまち-

1.1. 伝統と文化を観光する街「浅草」

江戸の伝統や文化をその界隈に残す街浅草は、日本らしさを現代に伝える国際的な観光地として多くの人々を魅了してきました。また、浅草は商人や芸人、職人の文化や工芸の伝統が息づく街でもあります。私たちは、まちを取り巻く人々が作り出していく**伝統や文化**を楽しみながら新しく発信し、人とまちを繋いでいく**建築**の提案をします。



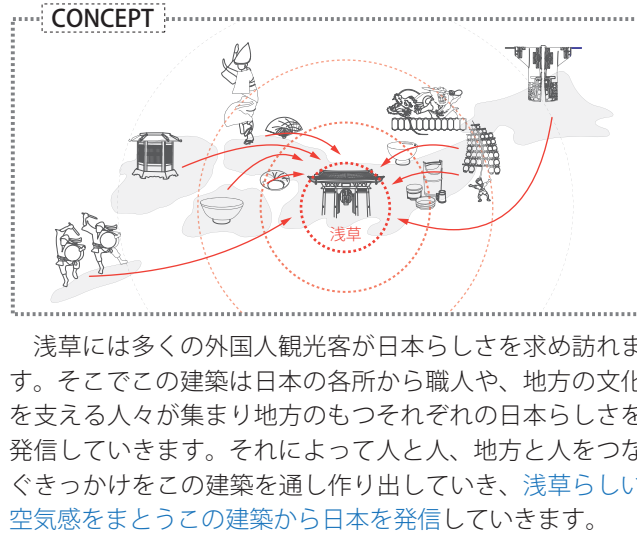
1.2. 様々な要素が日々の賑わいを作り出す。



この建築は新たな浅草のシンボルになり、浅草六区に賑わいを与えとともに「みち」と「まち」と「ひと」を繋いでいきます。

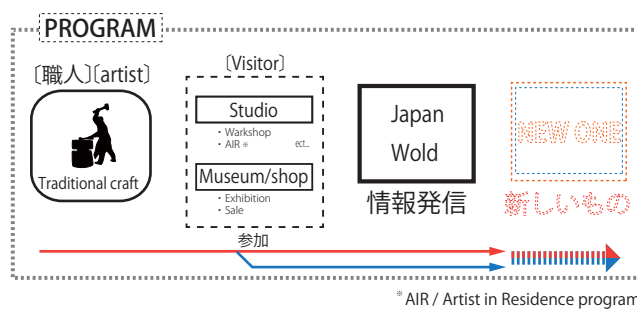
■02. 古きをつなぎ、新しさを創造する。

2.1. 浅草らしさから発信される日本らしさ



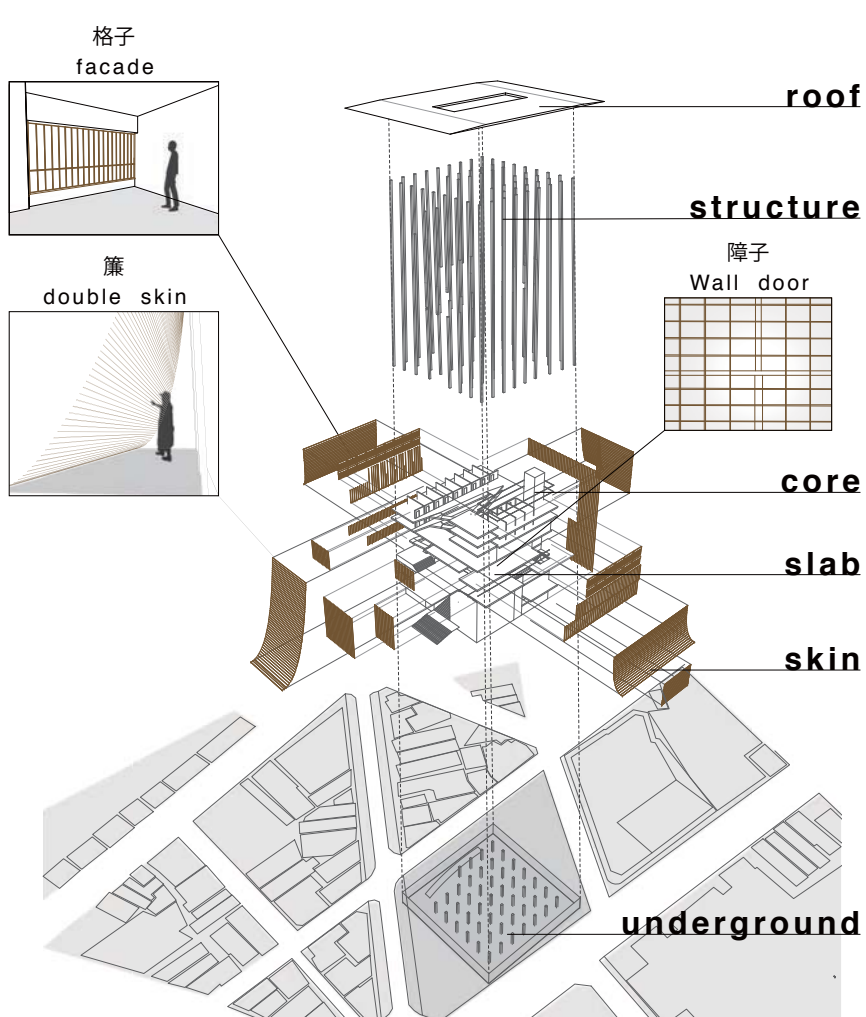
浅草には多くの外国人観光客が日本らしさを求め訪れます。そこでこの建築は日本の各所から職人や、地方の文化を支える人々が集まり地方のもつそれぞれの日本らしさを発信していきます。それによって人と人、地方と人をつなぐきっかけをこの建築を通し作り出していく、**浅草らしい空気感**をまとうこの**建築から日本を発信**していきます。

2.2. 作る場につながる「人と人」「人とまち」



ローカルな職人やアーティスト等が創造の場やコミュニティの場を求めこの建築を訪れます。アーティストや観光客は「アーティスト・イン・レジデンス」やワークショップのプログラムを通し**伝統工芸**や制作活動を行いながら「人と人」「人と街」を作る場をつないでいきます。

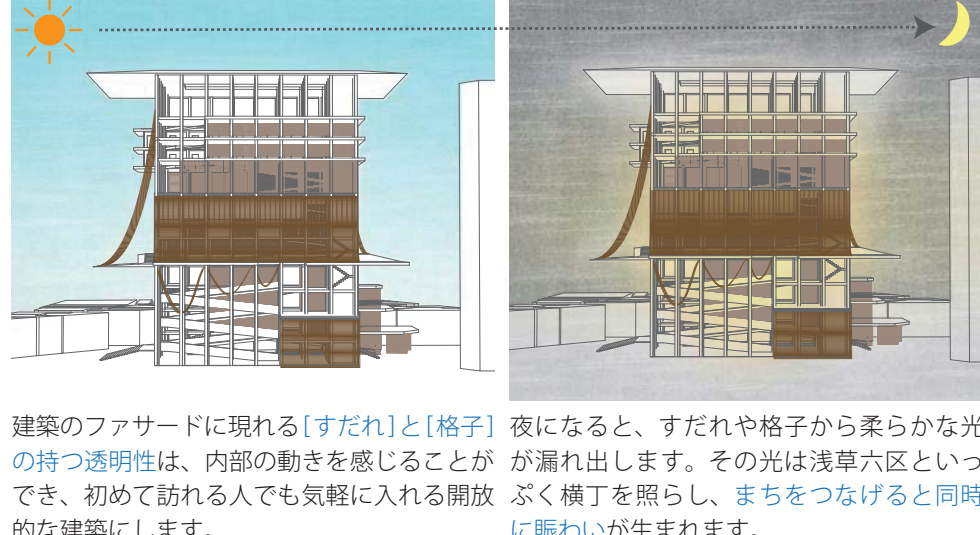
■03. [伝統]をまとった建築構成



アーキファニチャー化した**伝統工芸**が建築の空間を彩り、ファサードへと表出します。建築でもあり、家具でもあるアーキファニチャーは空間の秩序を指示するとともに、人間の動作や身体のスケールに呼びかけます。アーキファニチャーはプログラムとともに可変することで、空間のフレキシビリティを高めます。

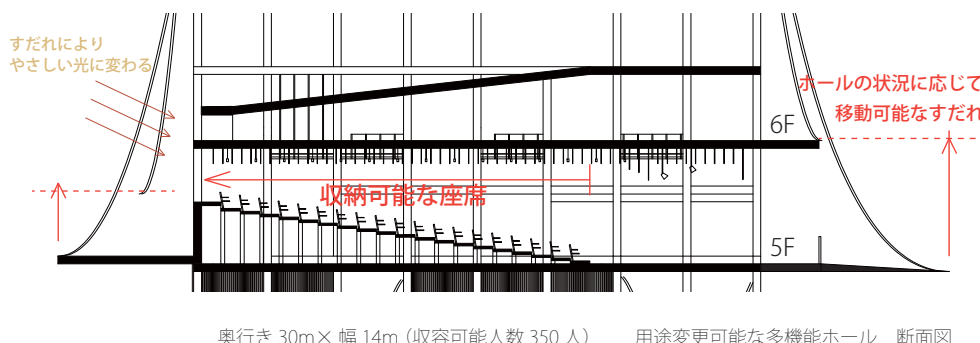
■04. 提灯のような建築

4.1. まちのシンボルとしての昼と夜



建築のファサードに現れる「**すだれ**」と「**格子**」夜になると、すだれや格子から柔らかな光の持つ**透明性**は、内部の動きを感じることができ、初めて訪れる人でも気軽に楽しめる開放 ぶく横丁を照らし、**まちをつなぐと同時に賑わい**が生まれます。

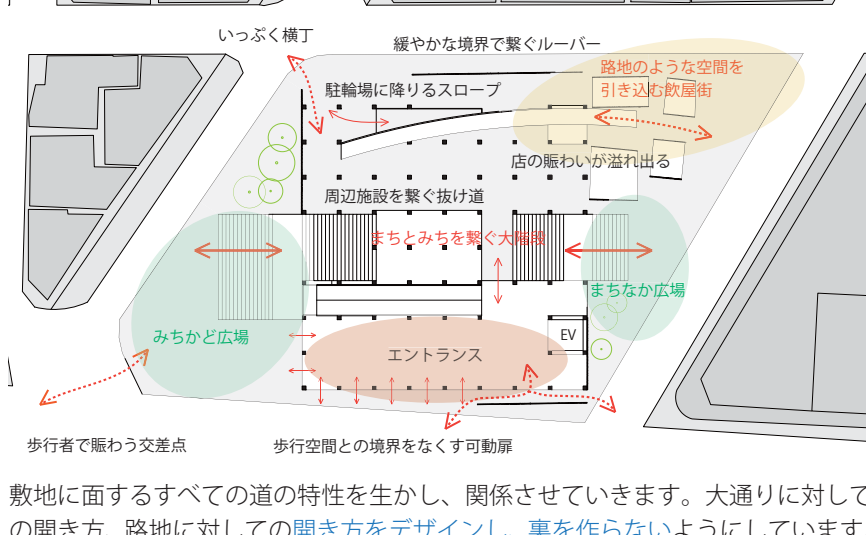
4.2. ブラックボックスにならない劇場



劇場で公演がないときは座席を収納することで、マルシェやフリーマーケットなどを行うイベントスペースとして使用することができ、イベントを行う際は、内外に設置されているすだれを上下移動させることで、**目的や規模に応じた空間**をつくり出します。

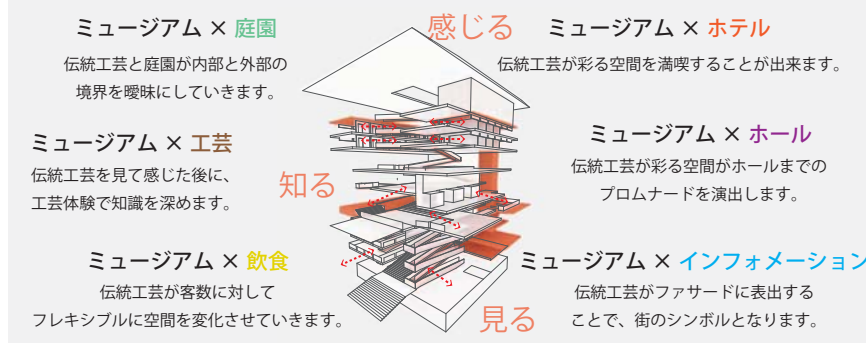
■05. 歩行空間と連続する豊かな空間

様々な場所から抜けられる道が周辺施設と連動し街づくりの拠点となる。



敷地に面するすべての道の特性を生かし、関係させていきます。大通りに対しての開き方、路地に對しての**開き方をデザインし、裏を作らな**ようにしています。

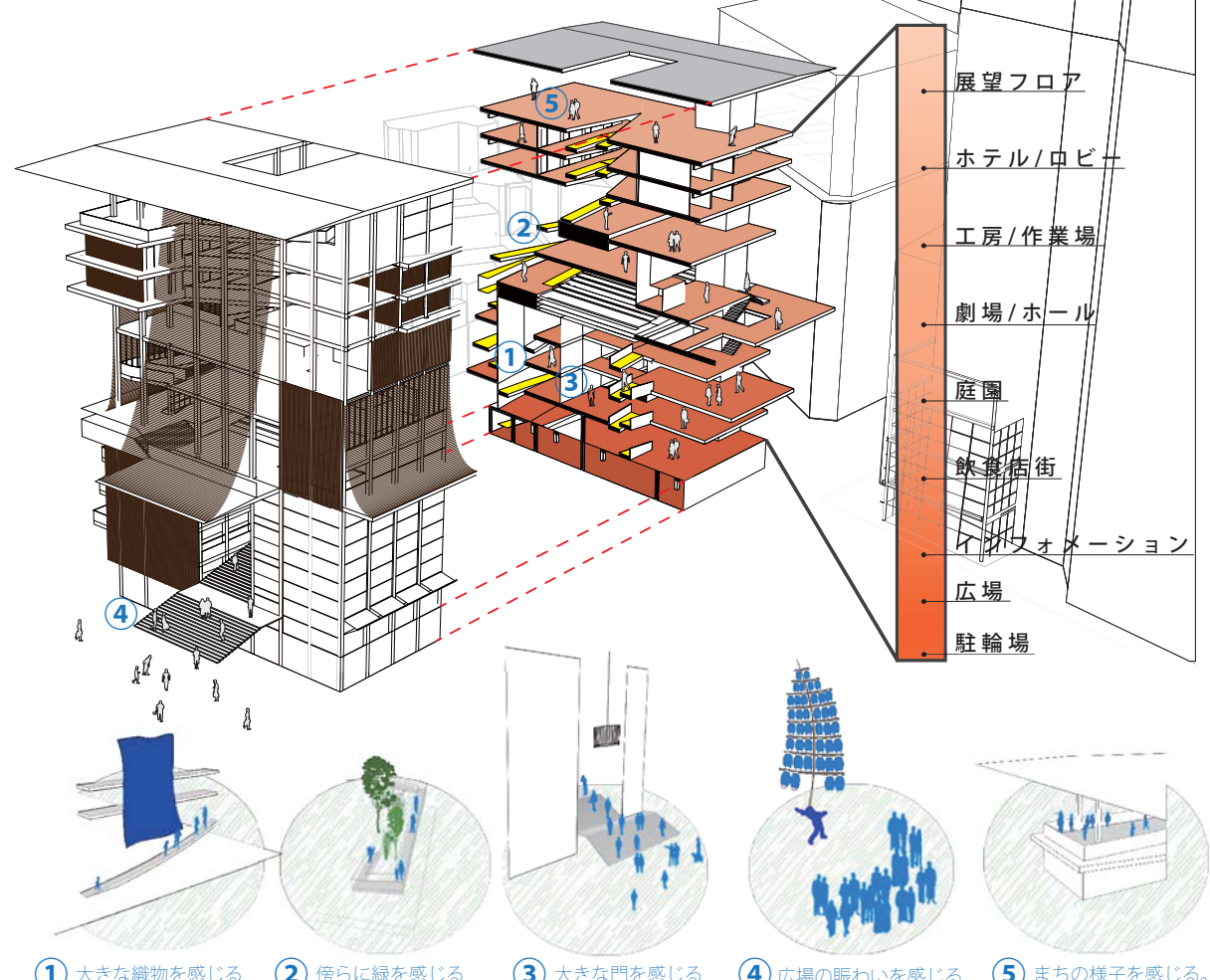
■06. 伝統が生み出す「プロムナード」



ひとつながりのミュージアム動線を建築全体を取り巻くように配置します。ミュージアムを無料の展示空間とすることで、それぞれのプログラムと相互関係をもちながらひとつの**プロムナード**をつくり出します。「見る」「知る」「感じる」の**プロムナード**を街から**建築内部**へと構成していきます。

■08. 浅草らしさを感じながら巡るやぐらのプログラム

建築に「浅草らしさ」を感じられるよういくつかの要素を配置します。それらを**賑やかに変化**する機能と**連続するミュージアムの動線**でつなぎながら**全体の機能**を構成していきます。その事により街を巡るよう**建築の内部**を巡る事が出来ます。



① 大きな賑わいを感じる ② 傍らに緑を感じる ③ 大きな門を感じる ④ 広場の賑わいを感じる ⑤ まちの様子を感じる。



ガラス板平入り戸を開け放つことで、アトリウムは街と一体のパブリックスペースになります。街の活動と連動するイベントスペースとして利用可能です。



格子に囲われた中央の劇場部分に隣接する庭園空間は、自然を感じながら上階へとアプローチすることが可能です。おぼろかな歩行空間は都市のグリーンスポットになり劇場と共にさまざまな使われ方を発揮します。



街から路地のようなアプローチを持つスロープには大きな織物がかり空間をやわらかに演出します。街の動線を引き込むことによって街の賑わいが建築の内部へと引き込まれます。



最上階は浅草の「町」をできる展望閣になっています。浅草のまちに大きく軒を出した屋根は建物に全体性をあたるとともに新たなシンボルにもなります。